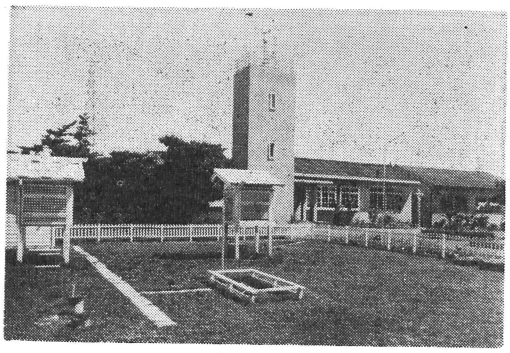
地方だより

石巻測候所



石巻測候所

今はすでに旧聞になってしまったが，39年のお正月はNHKのテレビで石巻が大もてであった．恒例の紅白歌合戦には石巻河岸の漁船員達が白組の応援団で元気な姿を写し出されたし，「行く年来る年」には大晦日を送る港一ぱいの漁船の真白い船体が静かに感銘深く写し出された．そうして39年の元朝，夜を徹して金華山神社にお参りする威勢の良い漁船の群れが全国に紹介された．

大圏コースで船や飛行機がアメリカからまず金華山を目ざしてやってくる．黒潮暖流と親潮寒流は金華山沖で激しくぶつかり合う．こゝは航路の難所となり，大漁場として名をなすのも当然である．

松島のサーヨー　瑞厳寺ほどの寺もないトエー
　　アレハエートソリャ大漁だエー
前は海サーヨー　うしろは山で小松原トエー
　　アレハエートソリャ大漁だエー

石巻市の中心……江戸時代の商港で，現在は主として漁港になっているが，今工業港が他の地区につくられつつあり，また本格的漁港もつくられようとしている．

石の巻サーヨー　その名も高い日和山トエー
　　アレハエートソリャ大漁だエー

この頃大漁節（斉太郎節）がよく歌われる．

石巻はその歌のその海やその松島のある漁港として栄えてきた．今や観光地金華山や松島は数十万の客を迎え，加えるに仙台湾新産都市，工業港造りに懸命で，その槌音は高く，昔江戸の飯米の6割を積み出したという商業港は漁港を，工業港を，更には観光港を加えて只々眼を見張らざるを得ないようになった．

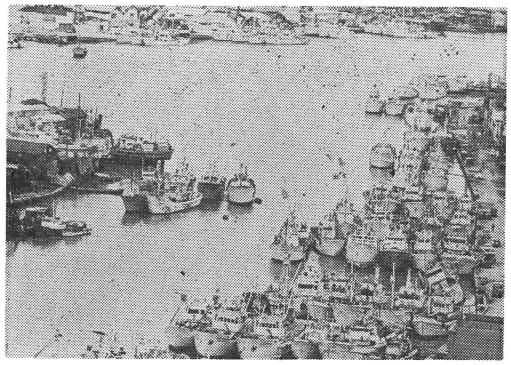
産業が発達し都市が発展する．気象や海象の資料や予報がどれ程重要なことか，測候所がどんなに頼りにされているかは想像されるであろう．

ラジオの漁業気象が「相川では……，石巻では……，宮古では」と放送する．市民は只そこに「石巻」が出てくることに満足を覚えているのではないかと一応は意地悪く思うのだが，多くの大きい漁船をもつ石巻にはこの漁業気象の放送がどれだけ役に立ち利用されているかは計りしれないのだという．

金華山沖地震帯は近い．津波は三陸沿岸の宿命である．77年の歴史をもつ石巻測候所は小なりとはいえ気象庁の第一線として懸命の努力でこれに応えているのである．

ともあれ市内には牡鹿半島のリアス海岸の深い入江がエメラルドグリーンの水堪えて太陽がいっぱい．ひなびた風光を静かに楽しむバカンスのお客をまっている．

（松本克己記）



北洋へ出航準備中の漁船